

# 白 鳩 の 友

第 5 5 号

[平成 20 年度 第 64 回定期総会資料]



長野県松本ろう学校同窓会

## 「ろう学校名前を残して」

松本ろう学校同窓会長 葦澤 正 敏

同窓会の皆様には益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

昨年中は皆様のご協力を頂き、松本ろう学校創立 80 周年記念事業を無事終える事が出来ました。改めて感謝申し上げます。

2009 年は世界経済の悪化が進み、日本もますます景気後退し、自動車業界、大手企業でもリストラが始まりました。県内も非正規社員の解雇が相次ぎ、今年度は 3 月末の解雇予定者を含め約 4000 人の解雇者が出る見込みで、愛知県に続き全国で二番目に多い数です。深刻な状況が続くと予想されますが、そんな時こそお互いの情報交換をきちんとすることが重要だと思います。

さて、特別支援学校については、検討が始まってから 3 年近くになります。県と長野ろう学校は 3 年前から協議を続けてきましたが、今年 1 月末、苦渋の決断をされたと同校の職員から話をお聞きしました。私達にはショックで残念な結果です。県教育委員会が最初から提示していた計画です。長野ろう学校が他の障害のある子ども達の分校の併設を受け入れることになりました。

近い将来は松本ろう学校にも併置されるかもしれないと心配しています。聴覚障害者の数が他の障害者の数より少ない状況が考えられます。その時「ろう学校」の名前が消えてしまうのではと危機しております。皆さんは母校卒業生としてどう感じますか？ 私達の「母校」の存続を求める運動をしなければいけない時です。会員の皆様も危機感を持ってろう学校の名前を残す活動にご理解、ご協力をお願いします。

さて楽しい話題を。昨年の行事が好評だったので、今年も多くの方が行事に参加出来るよう、同窓会活動が盛り上がるよう頑張っていきたいと思えます。

最後に皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

## 物づくり

松本ろう学校長（同窓会顧問）小林 文子

本校の中央廊下にある「松ろうギャラリー」に今、展示されている作品です。

中学部の生徒達が丹精込めて作りあげた切り絵と編み籠です。

作品の前に立つと、ホッと心が和みます。



同窓会の方々も皆さん腕に覚えのある方々がたくさんいらっしゃって、毎年、絵や写真などを学校にご寄贈いただいています。その方のお気持ちが伝わってくるようで、子ども達もいただいた作品に目をやるときの表情はとても柔らかいです。

私も、同窓会の方々のようにりっぱな作品というわけにはいきませんが、ちょっと手いたずらをしています。

花が好きなので生け花もするのですが、今は、プリザーブドフラワー作りに時間をかけることが、ちょっとした息抜きになっています。



お友だちへのプレゼントにしたり自分のために作ったり、作品の行方は様々です。  
日常生活からちょっと距離を置きたい時にはうってつけです。  
本校の子ども達にも、日常生活からちょっと距離を置く時間の楽しさを味わってほしいと思っています。

同窓会の皆様、是非、本校にお出かけいただき、後輩達に秘伝の技をご伝授ください。

## 80周年記念祝賀会から ～世代を超えて～

松本ろう学校教頭（同窓会世話役）望月 弘

今年は本校にとって、創立 80 周年という記念すべき年でした。同窓会の皆様には記念祝賀会を計画していただきましたが、ビデオ上映「映像で見る松本ろう学校 80 年の歩み」や手話劇など、祝賀会に出席した人、全てが心に残る記念祝賀会となりました。

その中で、小学部 1 年生の日高夏生さんが第 1 回卒業生で元松本ろう学校職員の長岡たけよさんに、花束を贈呈する場面が、今でも私の脳裏に焼き付いています。90 歳を越えるご高齢にもかかわらず本校に来ていただき、インタビューに応じてくれたことへの感謝の気持ちを花束に託して、日高さんが代表して花束を贈ったのですが、私はそこに世代を超えたバトンのつながりを感じました。

日高さんから長岡さんに贈った花束ですが、長岡さんから日高さんに、いや全校のみんなに『しっかり勉強して立派な大人に皆さんなってください』とメッセージが送られたように感じました。そのメッセージは、90 年以上も生きてきた重みを伴い、そこに出席していた私達大人にもしっかりと伝えられました。長岡さんとの出会いの機会を与えていただいた同窓会の方々に感謝するとともに、世代を超えた長岡さんのメッセージを心に刻み、一日一日を大切に生きていきましょう。



## 80周年を迎えた松本ろう学校

松本ろう学校 PTA 会長 濱野 進

平素は、学校行事などご支援ご協力頂き誠に有難う御座います。また、本年度は 80 周年と言う事で昨年度から準備してまいりましたが、葦澤会長始め多くの皆様に変御協力頂き盛大に 80 周年記念とは祭と祝賀会が開催されました。同窓会製作のビデオで、本校の歴史を教えられました。大変貴重なものとなったと思います。この場をお借りして改めて御礼申し上げます。

さて、本年度の学校を取り巻く環境についてです。皆様に於かれましても大変ご心配されている事と思いますが、特別支援学校と言う枠組みになり校名変更・学校再編の問題があります。平成 19 年から県聴覚障害者協会を中心に関係諸団体で「長野県聴覚障害教育の明日を考える連絡協議会」を発足させ県側と交渉してきました。が、長野ろう学校は建て替えの問題もあり、かなり県側に譲歩した内容で決着してしまいました。

松本ろう学校の建物はまだ新しく、建て替えは当分先になるかと思えます。今から、松本ろう学



校のあり方について検討していく必要があるかと思っております。また同窓会の皆様のお力をお借りしなくてはなりません。

来年度も、御支援御協力の程、宜しく御願ひ申し上げます。

## 青春の思い出

長野県中南信聴覚障害者親の会長 田中 信光

松本ろう学校同窓会員の皆様方におかれましては益々ご健勝にてご活躍の事とお慶び申し上げます。

毎年3月下旬から甲子園球場で始まる、春の選抜高校野球大会を、私は特別な思いで観ています。その理由は、私もかつては甲子園を目指した高校球児だったからです。しかし乍らその夢は叶う事はありませんでした。

思い出をちょっと書いてみようかと思えます。今から50余年前、某高校の野球部の一員として、春の選抜の出場権の懸った、秋の県大会に望みました。私自身は、たいした選手ではありませんでしたが、良き仲間にも恵まれ、当時としては長野県で最強の敵、松商学園と決勝戦で対戦、延長19回の熱戦の末サヨナラで勝ち優勝、見事県代表として北信越の本大会に出場する事が出来ました。北信越の本大会でも順調に勝ち進み、決勝戦にまで勝ち残りました。当時のチームの実力からはとても信じられない様な気持ちでした。

決勝戦の相手は、地元新潟商業、又、相手の投手は、屈指の好投手と騒がれた本間君でした。その本間投手を打ち崩す事が出来ず延長13回ついに尽き、勝利を治める事が出来ませんでした。この時点で甲子園出場は夢となってしまいました。今は当時を思い出し懐かしく高校野球を観させて頂いております。

## 「松ろうで過ごした3年間」

松本ろう学校高等部生徒会長 野尻 真由

私は、松本ろう学校の幼稚部へ通い、小中と地元校へ戻り、また高等部に入りました。高等部の3年間、ここでやって良かったことはいっぱいあります。その中の二つについて書きます。

一つ目は、生徒会長をやったことです。大変なときもありましたが、みんなと協力したり先生方に相談したりして、自分なりに頑張りました。特に80周年記念はと祭では、校内外の多くの方々との絆を実感しました。特に、同窓会の方が作って下さったビデオを見て、先輩方の歴史の上に今の私達があることを感じました。ありがとうございます。

二つ目は、進路です。自分の夢を叶えるために、七カ所で職場実習をしました。夢と現実のギャップに悩みました。家族や先生方と相談を重ね、悩んだ末、高2の3学期には働きたい会社が決まりました。高3で実習し、入社試験を受け、内定をいただきました。今は嬉しさの反面、4月からは、松本ろう学校を出て社会人になるという不安でいっぱいです。でも、同窓会のみなさまのように、自分の仕事に誇りを持って、笑顔で頑張っていきたいです。



# 同窓会相談役の一言

## 「歴史と未来」

山岡美穂(小学部)

昨年度から準備を進めてきた 80 周年記念事業も、皆様のご協力のもと、無事終えることができました。本当にありがとうございました。

80 周年の一番の思い出はやはり祝賀会です。アトラクションは何をやるか、昼食のお弁当はどうするか、座席は…など、同窓会の方々と夜遅くまで相談し、準備を進める中で、松本ろう学校の歴史と、その歴史を作ってこられた同窓生の皆様の存在の大きさを改めて感じることができました。また、この歴史を未来に繋げていかなければいけないあと、責任の重さも痛感致しました。

子どもたちを温かなまなざしで見守り、子どもたちのこれからについて考えて下さっていることに、感謝の思いでいっぱいです。

一年間ありがとうございました。そして、これからも学校、そして子どもたちの為に、どうぞよろしくお願い致します。

## 「80 周年の大きな力」

小沢智子(小学部)

本校にとって一つの大きな節目となった創立 80 周年記念の年を共に迎えられた幸せを感じております。その記念行事を支えていただいた大きな力が、同窓会の皆さまのお力でした。特に祝賀会は、同窓会の皆さまのお力が結集した心に残る素晴らしい会になりました。寸劇も子どもだけでなく私たち大人も楽しみ堪能しました。80 周年を振り返るビデオ上映も見事でした。1 年近くかけてのご準備、休日やお仕事帰り夜遅くまで校正・編集。その熱い母校愛に感謝の気持ちでいっぱいです。ラストの第 1 期生の大先輩と 80 周年目の小学部 1 年生とのシーンも感動的でありました。81 周年目のスタート台に立つんだという思いでいっぱいになりました。あらためて、本校が同窓会の皆様のご尽力に支えられていることを確信いたしました。ありがとうございました。そして今後ともよろしくお願いいたします。

## 「回顧」

同窓会係主任 千嶋宏典(中学部)

今、色々なことが頭をよぎる。どんなに頭の中をめぐらせていても 80 周年記念祝賀会しか思い浮かばない。真っ先に出てくるのが祝賀会。いや、正確には同窓会の方々とビデオ上映の製作に取り掛かったり、どういう企画で進めていくのか入念に話し合ったりするなどの準備そのものしか残っていない。そこに強い記憶が残るのは大変だったという単純なものではない。むしろ、当日まで準備を進めていく中で同窓会の方々が松本ろう学校に対する想いがどれほど強いものか、重いものかを思い知らされるパターンの連続であったからだ。だからこそ、あえて「母校」と親しみを持って呼んでいるのだろうし、皆さんにとっての「母校」は母親以上の存在なのだろう。祝賀会を担当し、同窓会の方々と共に協力しながら準備を進めてきたことは幸運以外の何物でもなかった。彼らの松本ろう学校に対する想いが伝わり、それを知った自分も何かを得たような気がする。

一年間、私の力不足で多々ご迷惑をおかけしたと思いますが、同窓会の方々と一緒に仕事できたことを嬉しく思います。ありがとうございました。

青樹正美(高等部)

今年度、松本ろう学校は創立 80 周年を迎えました。記念祝賀会は、同窓会の方々が中心に企画・開催していただき、盛況のうちに幕を閉じました。

特に、松ろうの歴史を振り返るビデオ上映は、遠方までの取材や今までの資料収集、ビデオ編集

等々、大変ご苦労されたことと思います。おかげさまで、同窓会の方々の母校に寄せる思いや歴史を、生徒とともに実感することができました。また「同窓会の方々に支えられて今の私達がある」ということに、改めて感謝する機会となりました。

在校生も同窓会のみなさまのように、母校に誇りを持って、いきいきと活躍できる生徒達になってほしいと願います。そのためにも、1日1日の学校生活を大切に、生徒と一緒に成長していきたいと思っています。これからもよろしくお願ひします。

進路指導主事 宮崎 純夫(専攻科)

長野市から通勤している私にとっては、この上ない暖かな冬でした。この暖かさとは打って変わって、雇用状況は昨年末から大変厳しい冬の情勢となりました。進路指導の仕事をしてハローワークや会社に訪問すると、リストラや派遣切りが日々実感として伝わってきます。本校卒業生の方々はトヨタ系列の会社に就職している方も多く、これからもご心労が多いかと思ひます。卒業生の方の進路相談も受け付けておりますので、お困りのことがあった場合は、お立ち寄りください。

### 「感謝」

古谷 久美子(専攻科)

今年度は、何と云っても「80周年」です。松ろうの歴史が分かりやすくきれいにまとめられたビデオや、子どもたちが笑いころげていた楽しい劇など、どれも同窓生の皆さんの『松ろうに対する熱い思い』が伝わってきて、感動しました。ご苦労をして集めていただいた寄付も、本当にありがとうございました。

皆さんの『熱い思い』を私達も大切にしたいと思ひます。1年間、ありがとうございました！



昨年6月、同窓会長の葦澤正敏さんと事務局長の内田と一緒に、正門銘板「長野県松本ろう学校」の拓本を作って、開校80周年記念として母校に贈呈いたしました。

ご存知のように、2007年4月1日から「聾(ろう)学校」が全国あちこちに「特別支援学校」という校名名称に変更されてしまいました。「聾(ろう)」という校名名称が消えてしまったのは、「聾(ろう)」に誇りを持つ私達同窓会にとって残念な事だと思ひます。

是非とも「**長野県松本ろう学校**」という名称は、いつまでも続けてほしいと願っております。

(同窓会事務局長：内田 博幸)



# 松本ろう学校創立 80 周年『記念式典・祝賀会』

平成 20 年 10 月 18 日 (土)



記念式典：小林文子校長先生の挨拶



来賓祝辞：県聴覚障害者協会理事長山岡高弘氏



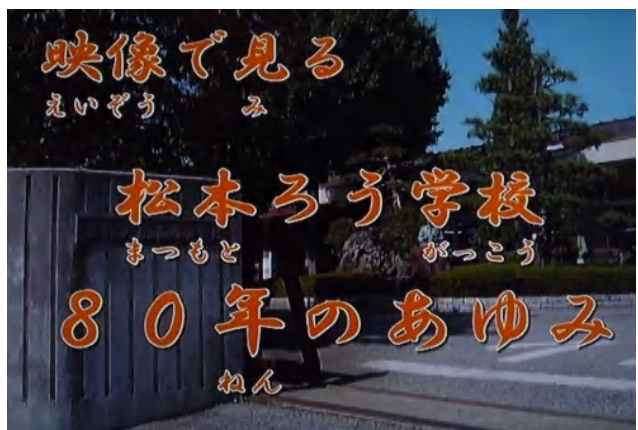
児童生徒より記念品『掲示板』の除幕



校内廊下に立派な作品『掲示板』



祝賀会（アトラクション）：手話劇『床屋さん』



ビデオ上映『映像で見る 80 年の歩み』